

平成25年度 総会 第1回定例会 4月18日(木)

ワークショップ「生き方学び」 —男女共生参画社会推進を目指して— 講師：羽岡ゆみ子さん

今回のワークショップでは、それぞれが感じたままの意見を出し合い参加した全員が参加した実感をもてる研修会でした。

日々の生活の中では、既成概念や無意識のうちに相手の事を考えずに、こちらの都合だけでものごとを進めてしまうことが多々あります。相手の事を思いやる気持ちを今より少し多く持つ事が、互いが生き良い共同参画社会のきっかけとなり、その継続が共生参画社会になると思った研修会でした。(田中 利率)



富山県男女共同参画推進員 全体研修会 4月20日(土)

富山県男女共同参画推進員 全体研修会

推進員としてはや1年、定例会を通じ男女が共に尊重し合い喜びと責任を分かち合う共同参画社会の実現のため勉強してきました。全体研修会では、高岡連絡会のみならず国や県の指針、各連絡会の様々な取組みや現状などを知ることができ、とても参考になりました。

DV やワークライフバランスなど難しい課題を分かりやすく伝えるために、日々の生活の中にある実例を表した小矢部市連絡会の皆さんの寸劇も、生活の中にある間違っただけの言動や行動の「気づき」を共有できた素晴らしいものでした。

今年度は、少子高齢化や地域の変化 - 現状に沿い、身近にある問題点を分かりやすく伝える活動をしていければと思っています。(奥村 憲司)



6月20日(木) 第3回定例会 DVD鑑賞とワークショップ

私たち地域・家庭部会は6月20日「配偶者からの暴力の根絶をめざして！」というDVD鑑賞とグループ討議をしました。

DVDは「テレビのサスペンスドラマによくあるねえ」というもので、怖いとか重いかとかという声があがっていました。グループ討議ではDVとけんかの境がわからない、又DVとは認めたくない気持ちがある、もしDVだと認めても家庭内のこと他人(外部)に話すことはためらいがやはりあるという意見がでた。他、40代~50代の子育てが終わった後の相談者が多いということが意外であるということ。

定例会の出席者が男性が多かったせいか、夫側が家族を殴ったり殴りたくなったりすると気付いた時、男側の方のケアをしてくれる、相談にのってくれるところがあるのではという意見があり、それもそうだなと感じました。

最後に「夫婦間のこと、お互いに日頃気遣う気持ちがあれば大きな問題にならないのではよね」という意見にただ頷くだけでした。(増井 美幸)

平成25年度 女と男のパートナー会議

7月6日(土) 氷見市ふれあいスポーツセンター

高岡・射水・氷見の3連絡会の持ち回りで開催されるこの会議。今回の一番の興味は本川氷見市長の講演会。「語り合おう！だれものつぶやきが、かたちになる市政へ」とあったので、行政の硬い話かと思いきや、納得感ある市政を行うために、集まった人に焦点を当てるのが大切であり、お互い認め合うことが重要と語っていました。

お互い認め合うことは、市政だけでなく、女と男も、親も子も、会社や上司、全てに当てはまることだと思いました。(高梨 真宏)



ワーク・ライフ・バランス 推進シンポジウム

7月10日(木) ウイング・ウイング高岡4階 高岡市生涯学習センターホール

高岡市の催しを観覧してきました。ワーク・ライフ・バランスを推進している事業所の認定と、厚労省雇用均等・児童家庭局総務課長定塚さんの講演、そして認定事業所を代表して特養老人ホームのアルテン赤丸さんの事例発表でした。講演で印象的だったのは、夫の家事・育児時間が長いと第2子以降の出生率が高いということ。事例発表では介護というご苦労の多い職場特有のご事情かもしれませんが、平均勤続年数の短さに驚きました。

政府や行政、そして職場と色々施策はされていますが、やはり家庭の、特に夫や両親の理解や協力がなくして、主婦の労働は成り立たないと感じさせたシンポジウムでした。(高梨 真宏)

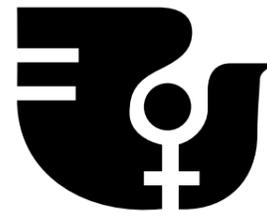


編集後記

広報担当になって15号が私の最初の編集です。基礎は先輩の方にしてもらって当てはめただけですけど、記事や写真の配置が難しかったです。次回はうまくできるようがんばります。(朴木 行子)

広報部員

- 副会長 高梨 真宏
- 部長 朴木 行子
- 山口 義雄
- 海内 隆行



ともだち共立

平等・開発・平和

第15号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

私の大切な男女共同参画

沙魚川 万紀子



私が男女共同参画推進員を卒業して3年が経ちました。私は他市で母子自立支援員をしています。簡単に言えば、ひとり親のための相談員...といったところ。そして日々相談の度に、男女共同参画への理解の必要性を感じています。それは離婚という選択に至るには必ずと言っていいほど、その夫婦間にDVが存在するからです。これは身体的暴力とは限らず、精神的や経済的暴力など、様々なパターンや度合いは違いますが、一度は心を添わせて結婚した二人の関係が終結するのですから、至極当然だとも思われます。

推進員として学んだのは、男女平等、すべての人には等しく人権がある、その人権を脅かすものの多くは暴力であるということでした。その暴力は、親から子であれば虐待と呼ばれ、会社や学校に起きればいじめ(ハラスメント)と称されます。DVは親しいパートナー関係に起きる暴力であり、その暴力の最たるものが『戦争』です。

しかし人は性別、年齢に関わりなく対等であり、言葉というツールを持ち、コミュニケーションをとることができます。一方が暴力を使い、もう一方を支配する関係はあってはならないのです。そして暴力は、ふるう方の勝手であり問題であり、ふるわれる方の努力や我慢が足りないからではありません。私はそのことを相談に来られた方に必ずお伝えします。それがパートナーからの暴力で疲れ切った心をエンパワーメントし、これからの人生に希望を持つ一歩となるからです。男女共同参画とは何ぞやと言いつつ学習を重ね、知り得たジェンダーへの視点や人権尊重の意識が、私の強い味方となっています。

近來、度々政権が変わり内閣の大臣職が発表されるたびに、少子化は書かれても男女共同参画はどこに行ってしまったのかと寂しくなります。しかし、私たちの高岡市では今も推進員さんたちが生き生きと活動し続け『ともだち・共立』も受け継がれており、私はその推進員であったことをとても誇りに思っています。

この広報紙は高岡市男女平等・共同参画課のホームページからもご覧いただけます。



ミニ地区懇談会開催中!

太田校区

講師 高井一三氏 (前新湊高校 校長)

演題 子育てについて

子育てには”方式はない”ということを最初に述べられた。

37年間の教師経験をもとに、親の子どもに対する接し方を話された。特に携帯電話の持たせ方など今の学生の様子をお話された。

中学・高校と部活動を一生懸命やるのはよいが、夜遅くにユニホームなどの洗濯を親がやるのを子どもは当たり前と思っている。親もそんなに苦とは思っていない。

もっと早い時期からの”親離れ”、”子離れ”が必要だと述べられた。
(増井 美幸)

木津校区

講師 高岡市男女平等推進センター相談員

演題 「DVの事知っていますか？」
高岡市の現状

高岡市男女平等推進センターの相談員をお迎えし、講演を行って頂きました。

DVについての疑問の中で多く聞かれる質問をレジュメにまとめてあり、それに沿って回答していくという形式で、短い時間で制約がある中、DVの事を参加者に分かりやすく説明して頂きました。

今回講演を聞き、いかなる理由があれどDVは悪い事・暴力は悪い事だということを参加者全員が認識し、忘れられないと思います。
(下川 裕子)



平成25年度 ミニ地区懇談会開催スケジュール

各地区で懇談会を開催中です。多数の方々の参加をお待ちしています。(9月5日現在)

福 岡	中 田	戸 出 西 部	戸 出 東 部	西 広 谷	石 堤	千 鳥 丘	東 五 位	牧 野	国 吉	古 府	太 田	伏 木	野 村	二 塚	下 関	万 葉	能 町	成 美	木 津	南 条	博 労	西 条	川 原	横 田	平 米	定 塚	校 下 名
1月予定	2月予定	11月	10月または	11月8日(金)	未定	未定	9月13日(金)	未定	11月13日(水)	5月13日(月)	7月19日(金)					11月30日(金)	6月21日(金)	11月28日(木)	未定	11月予定	未定	未定	未定	未定	未定	開催予定日	

民間支援基金パサバは皆様の支えで成り立っています!



DV被害者が、自立の一步を踏み出すための一時支援金を無利子で貸します

DV(ドメスティック・バイオレンス)問題は社会認知もされ、徐々に支援の輪も広がっています。しかし未だ被害の相談件数は増加しており、子どもへの影響も深刻な問題になっています。パサバは、誰もが安心して暮らせる、何事も暴力で解決しない社会を願って活動します。

賛同するみなさんの会費・寄付で運営しています。あなたのサポートをお願いいたします。

(会費・寄付振込先)

ゆうちょ銀行〇七九店(079)当座預金口座番号 0057876

口座名 サポート基金パサバ

問合せ先: 080-6358-0838

パサバって?

フランス語で、「一歩一歩」という意味です。

第2回定例会

おいほら餅店工場見学

6月2日(日)



午前9時、大人・子どもあわせて25人が、福岡町の「おいほら餅店工場見学」に出発。工場では、専務の生原正樹さんに創業から今日に至るまでのお話を聞きました。

正樹さんは社長の善勝さんの息子さんでもあり、毎朝3、4時に起きて家業の餅づくりに打ち込まれている両親の背中を見て育ったということです。そして、それが自分では普通だと思っていたことを聞いて驚きました。

作業場では、年齢層もばらばらな男女の皆さんが、ほとんど手作業で協力しながらお餅やお菓子などを作っておられました。そして、皆さんが笑顔いっぱい作業をされているのでとっても雰囲気が良く、美味しいお餅、お菓子ができるのだと思いました。

一緒に行った子どもたちには、いろいろな形の職場があることを学ぶとともに、働く喜びも知ってもらえる機会になったと思います。
(奥村みさ子)



第4回定例会

七夕飾り作成

7月18日(木)



高岡七夕まつりに参加するために、DECOクレイクラフト認定講師の畑野幹子さんをお迎えし、七夕飾りづくりをしました。

飾りは紙粘土を使うもので、参加者は白や赤、青、黄色など思い思いの紙粘土を使いながらハートや星などを作っていました。中には、何色も混ぜて作ったカラフルなものや鏡餅、ソフトクリームなどを模したものの力作もありました。

できた飾りは、みんなで汗を流しながら笹に飾り付けましたが、今回はコンテストで賞をとれなくてとても残念でした。
(朴木 行子)



悩んでいることはありませんか ひとりで悩まないでご相談ください

DV(夫や恋人からの暴力)
家庭や職場のトラブルや悩み事など
高岡市男女平等推進センター相談室
TEL 0766-20-1811



平成24年度の
主なデータ

相談件数: 3,379件(延件数)
主な主訴: ①DV 1,911件(56.6%) ②生き方 734件(21.7%)
③夫婦の問題 209件(6.2%)
年齢別: ①40代 1,502件(44.5%) ②30代 988件(29.2%)

相談時間 9:30~16:30 月・火・水・金・土
14:00~20:00 木

【電話相談】【面接相談】(面接相談は予約が必要です。)
※休館日は、毎月第4月曜日・12月29日から翌年の1月3日です。
(相談業務は毎週日曜日がお休みです。)

高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階) ●JR高岡駅前

相談室より

相談室では一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、相談者自身が自分の力を発揮して問題解決に取り組んでいけるようなサポートを行っています。

電話相談や面接の中で相談員とともに問題を整理しながら、今後の見通しをつけていくための知識や情報も提供しています。